

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通した思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇学校経営														
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・概ね高い評価を得ている。特に、「入学してよかった」「一人一人のよさや可能性を伸ばす」という項目が、生徒に高く評価され、日常的な教育活動が肯定されている。														
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域とともに魅力ある高校づくりを進める。														
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 企画・職員会議 活力ある高校づくりワーキンググループ 														
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニティ・スクールの機能を充実させることで、教職員・地域住民・保護者による目標・ビジョンの共有を図り、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営を行います。 (2) 「普通科」、「理数科」それぞれの特色ある教育課程により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。 (3) ふるさと教育の推進と飛騨市学園構想により課題解決に取り組む学習を充実させます。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (3) 学校運営協議会委員、保護者による評価 (2) 中学生の進路希望調査、1日入学参加者数、生徒・保護者による学校評価 														
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価													
<ul style="list-style-type: none"> 県の「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」実践校として地域人材の有効活用と課題解決型学習の開発 本校の教育目標実現のための教育課程編成と観点別評価の作成 「理数教育フラッグシップ推進事業」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域とともに魅力ある高校づくりを進めたか。 ②実態に即した教育課程編成や観点別評価の準備をしたか。 ③理数科の特色を伸ばしたか 	<table border="1"> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>(C)</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		(A)	B	C	D	A	B	(C)	D	A	(B)	C	D
(A)	B	C	D												
A	B	(C)	D												
A	(B)	C	D												
12 成果課題	<p>○地域連携については、年々改善されてきて、より多様で深い連携ができるようになったと考えている。地域の方や中学生からも評価され、入学希望者を増やしている。</p> <p>○「理数教育フラッグシップ推進事業」の実施校として、課題探究活動やその報告会などで高く評価された。</p> <p>▲1年次生から観点別評価については各教科で試行錯誤が続いており、今後も検討が必要である。</p>														
13 来年度に向けての改善方策案	<p>地域連携については、来年度も全校体制でより豊かなものになりたい。教員の指導改善や学習改善のために観点別学習評価のシステムを各教科だけでなく学校全体の課題として取り組みたい。</p>														

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月7日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見据えた教育の機会が今以上に増えると良い。 地域の学校として地域の方々の共通理解はある程度得られていると思われるが、今後も目標やビジョンの共有に努めていただきたい。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラムキ(YCK)プロジェクト」活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導																		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業、ICT教育を通じた協働的な学びについて、生徒からの評価は上がっている。 その一方で、一人一人の能力に応じた学習支援について生徒からの評価は前回よりも上がっている一方、保護者からの評価は下がっている。 																		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業改善と学習指導の充実に努め、主体的・協働的に取り組む態度を育てる。																		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各担任会、副担任会、教科会 教育課程委員会、学習指導委員会等 																		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標																		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的知識・技能の習得を図り、思考力、判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育む。 (2) 進路希望に応じた授業・コース選択、少人数学級や習熟度別授業等個々に応じたきめの細かい学習支援を行う。 (3) 公開授業、研究授業を計画的に行い、生徒が主体的・協働的に取り組む環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による授業アンケート、教員相互の評価 (2) (3) 授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価 																		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																	
<ul style="list-style-type: none"> 研究授業・公開授業による指導力向上 アンケート調査による学習活動の点検と改善 初期指導による高校での学習活動の定着 各教科の授業改善 (ICT機器活用等) 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業は改善しているか ②家庭学習は確保されているか ③個別指導は効果的か ④生徒は満足しているか 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="radio"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td><input checked="" type="radio"/> C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="radio"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D	A	B	<input checked="" type="radio"/> C	D	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D	<input checked="" type="radio"/> A	B	C	D
A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D																
A	B	<input checked="" type="radio"/> C	D																
A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D																
<input checked="" type="radio"/> A	B	C	D																
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン授業による学習支援、ICTを活用した授業については生徒を中心に高い評価を受けている。 ▲家庭での学習時間の活用、隙間時間の活用に課題が残る。 ▲一人一人の能力に応じた学習指導を行っているかについては、生徒と保護者等で評価が分かれている。 		総合評価																
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に家庭学習の重要性をデータ等で示すとともに、学習時間の確保について具体的にアドバイスをするとともに、生徒の学力の状況、学習の現状について保護者等ともより情報共有を図っていく。 																		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月7日

【意見・要望・評価等】
・ICT教育を今後も推進する一方で、学習支援について家庭との連携をより緊密にし、共通理解を図る。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域ヤマキ(YCK)プロジェクト」活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・社会のルールやマナー、いじめの指導に対して、生徒は昨年よりも高い評価であったのに対し、保護者の評価はかなり下がった。現状への保護者への周知、理解が不足していると思われる。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導委員会・いじめ防止等対策検討会議 スクールカウンセラー・各学年会・職員会議・MSリーダーズ活動 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育む。 (2) 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行う。 (2) 学校生活を通して集団の一員としての自覚と規範意識を高め、他人や社会との関係性を尊重できる個人を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒・保護者・職員への生活安全調査 (年3回) (2) いじめ防止等対策検討会議での評価 (弁護士・SC・地域代表・育友会長他) (3) 生徒・保護者による学校評価、身だしなみ指導件数、ネット・SNSによるトラブルの増減等 		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 生活安全調査、いじめアンケート(年3回)、心のアンケート(月1回)、学校安心安全チェックの実施。いじめ防止等対策検討会議実施。 日常的教育相談活動と生活指導(面談、登校指導、情報モラル指導、)の実施。学年会・職員会議における配慮の必要な生徒の情報交換。 スクールカウンセラーの活用。 SNSトラブル回避の啓蒙活動・人権LHR 	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめ問題は起きてても不登校重大事案は起きていないか。 ②生活安全調査やアンケート等の結果を学年会・職員会議で共有できたか。 ③生徒、保護者対象の学校評価数値は昨年度より改善したか。問題行動の件数の増減。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
12 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ問題は、些細なトラブルと思われる事案に対しても、方針に則り、組織的に対応できた。問題行動は少数だが、学年会等と情報共有し、迅速に対応した。 ○日常的な教育相談で、心の問題を抱える生徒が多数相談し、対応策を共有し、一人一人に寄り添った対応をした。 ▲スクールカウンセラーへの相談の希望は多くあり、規定の回数では不足した。 ▲スマホの使い方、特にSNSに起因する問題は根絶することはなく、機会を捉えて何度も啓発し、予防活動に力を入れる必要がある。 		総合評価
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校として情報共有を密にする。生徒の困り感や悩みに寄り添い、問題の早期発見、早期対応に心がける。 ・スマホの使い方は、あらゆる機会を捉えて啓発していく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月7日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホに関わる諸問題は引き続き啓発活動が必要である。また、保護者への理解促進を図ることができるとよいのではないか。 ・情報共有によるきめ細やかな対応、一人一人に寄り添った対応が望まれる。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通した思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの進路希望に応じた丁寧な進路指導が必要である。 複雑な入試制度について説明会等で保護者や生徒に情報提供する必要がある。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部 ・ 進路検討委員会、小論文職員研修、学習指導委員会 キャリア推進部、活力ある高校づくりWG、教務部や各学年会との連携 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①生徒が自己の適性や能力を理解し、生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成する。	①進路希望調査の結果や説明会等での振り返り内容		
②高大接続改革に対応し、3年間を見通した進路指導計画(補習、模試面接、小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援する。	②共通テスト出願者数、大学合格実績、公務員合格率等		
③生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行う。	③各種調査及び模擬試験等の結果		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や課外活動等を通し自身のあり方や生き方を考え、進路希望を具体化させる。 1年次から補習や模試、小論文指導を行い、3年次の面接・小論文指導では個別指導を行う。 進路説明会や分野別説明会・企業説明会などを開催し、進路希望の選択・実現を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①早い時期に進路目標を設定できたか。 ②学力が向上し、論理的に自分の意見を述べる力がついたか。 ③希望する進路を選択し、実現できたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○民間・公務員就職、大学の総合型選抜や学校推薦型選抜で生徒ひとりずつ指導教員をつけ、学年会や進路指導部と連携を取りながら指導をすることができた。 ○進路指導部や学年会、外部講師による進路説明会を実施することができた。 ▲高校生活を通して身につけた力を生徒自身が自覚し、進路実現の際に活用していく必要がある。 		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 変化する入試制度に対応できるように力をつけさせる。 生徒、保護者、教員と情報を共有しながら、適切な進路指導を行う。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月7日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望に合わせて手厚く指導を行っている。具体的なマニュアルを作り、指導の見える化を図るとよいのではないか。 進路情報の提供に努め、また他分掌と連携しながら進路実現につなげてほしい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラムキ(YCK)プロジェクト」活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇特別活動		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度と比較するとそれほど多くな変化がなく、概ね高評価を得られている。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇互いに支え合う関係を構築し、好ましい人間関係を作り上げ、豊かな人間性と思いやりのある行動力を育てる。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 部活動運営委員会 生徒派遣審査委員会 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> ① ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会活動等の諸活動を通じ、生徒たちが協働し、集団の中で望ましい人間関係を構築することを支援します。 ② 生徒が熱意を持ち、積極的に柏葉祭等の生徒会行事に取り組み、地域や社会、他者へ目を向け、自ら考え行動できる態度を育成します。 ③ 生徒が目的を持ち、自主的・自発的に部活動に参加できる環境を整備します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①② 球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、アンケートの実施とその結果分析 ③ 部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数、入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況 		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 様々な生徒会行事に向けて執行部会等諸会議を開催 広報活動により校外へ積極的に情報を提供 部紹介、伝達表彰を実施するとともに、部活動費及び備品費を適正に配分し、活動環境を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ① 球技大会・柏葉祭等の諸行事に達成感を味わらせることができたか。 ② 校内外で行事への取り組みの理解や支持を得ることができたか。 ③ 目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D 	
12 成果	<p>○ここ数年で、生徒会役員を希望する生徒や、活動に対してやりがいを持って取り組む生徒が増加した。また、文化祭、球技大会などの定例行事以外で生徒発案の企画を取り組むなど生徒会活動(全校縦割りLHR,公式Instagramの開設,ポロシャツの作成等)が活性化している。</p> <p>・ ○部活動への加入率が85%と高い状態を維持できており、様々な部活動で成果を上げている課。(バレー部:IH県ベスト4 サッカー部:各種地区大会優勝 美術・写真部、科学部:県総文祭優秀賞(科学部はR5年度全国大会出場権獲得))</p> <p>△生徒会執行部が行っている主体的な活動を全校生徒に広げていくことが今後の課題にあげられる。</p>		<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
13 来年度に向けての改善方策案	<p>全校生徒が自身の学校生活等について知ったり、考えたりすることが出来る機会を充実化させる。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日: 令和5年2月7日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動・学校行事・部活動関係についてコロナの現状問題はあるが充実している。 ・ 市役所等に協力してもらい、部活動等の実績をアピールできると良い。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇健康安全指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 清掃に関しては、今年度管理棟工事が入り校舎全体が綺麗になった事もあり、逆に隅等の汚れが目立つようになった。 健康管理に関しては、養護教諭を中心に常に配慮できている。 安全・衛生面では事務部との連携により、早めの対応ができた。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自らが健康で安全な生活を営む能力や態度の育成、環境美化を通じて豊かな心の育成を図る。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全委員会、安全衛生委員会 生徒保健委員会、生徒環境委員会、防災リーダー 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1)健康診断や防災教育を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度の育成を図る (2)日々の清掃活動、マナー教育(公共施設の利用)を通じて、豊かな心の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)健康意識向上活動(掲示物・配布物)、健康診断受診勧告者受診率、命を守る訓練(様々な災害想定)、防災教育実施前後比較、非常災害時帰宅確認報告率、生徒・職員による安全点検、防災士取得数 (2)生徒委員会・職員による環境・清掃状況チェック 		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人への受診勧告、健康相談、ほけんだよりの発行やポスター掲示等での健康面の啓発活動。 新型コロナウイルス感染症対応。保健委員による換気活動・換気状況チェック。 職員へのアレルギー対応研修、日常生活における事故防止の事前指導。 月1回の職員による安全点検、非構造部材の日常点検。職員・生徒による教室環境衛生点検、清掃点検(毎月)。環境委員によるゴミの分別収集と季節環境整備(草むしり、落葉清掃)、トイレ使用マナーの励行、環境衛生日常点検での教室環境への整備意識づけ。保健委員によるトイレ環境衛生点検。 命を守る訓練(4回)。防災リーダー「防災について考えよう(2学年対象)」実施。 災害時備蓄品の整備。災害対策マニュアル全生徒職員配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の健康管理 ②事故防止 ③安全管理、環境整備 ④防災 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検や非構造部材の日常点検により、事前に危険箇所等への迅速な対応ができた。 ○防災リーダーが株式会社洞口、無印良品アスモ高山、飛騨市役所と連携して防災教育を行った。その結果「減災力テスト」の数値も伸びた。防災士資格取得を目指す(昨年度11名合格)。 ○命を守る訓練を4回実施。本年度土砂災害時の対応を入れた。 ○健康診断の受診勧告者受診率が向上した。 ▲教室棟・管理棟共に綺麗になった分汚れが目立つ。意識を向上させる必要がある。 		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症を踏まえた安全性を第一に考えた指導と継続が一層必要である。 		

II 学校関係者評価

実施年月日: 令和5年2月7日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・防災リーダーを中心に行った防災教育に対しては高評価であった。防災士資格取得を推奨しているが、2学年全員に資格取得を目指させたらどうかという御意見も頂いた。 ・新型コロナウイルス感染症対応については概ね高評価であったが、今後も油断なく適正な指導を心掛けていく必要があるとご指摘された。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校 学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	・「話す力」「書く力」「表現する」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく、論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒	・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通した思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラムキ (YCK) プロジェクト」活動の実施	・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇キャリア教育	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・コロナ禍で模索しながらプロジェクトを推進し、多くの生徒が活動できた。 ・学校評価アンケートの該当する項目では、生徒・保護者の肯定的意見が92.7%・82.7% (昨年度91.8%・85.9%) と概ね高い評価をいただいている。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ふるさと教育の重点「地域に根付いた地域に愛される地域に貢献できる学校づくり」を通し、生徒の課題解決能力を育てる。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・地域創生キャリアプランナーを配置し行政・地域との連携を図る。 ・他の分掌と連携し、指導計画及び指導体制を整備する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校設定教科を含めたYCKプロジェクトの活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てる。 (2) 総合的な探究の時間を軸に、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」を育てる。	(1) YCKプロジェクトへの参加生徒数 (2) 生徒の身に付いた能力を評価する指標の活用 (3) YCKプロジェクト報告会の開催	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
【学校設定教科】2科目 (21名、17名)、2活動 (15名) 【課外活動】16活動 (540名) 32の活動にのべ1,639名が参加した。 【総合的な学習の時間】6活動 (785名) 【各教科・科目の授業】3活動 (245名) 【広報】2活動 (3名)、【部活動】1活動 (13名) 【1年生】715名、【2年生】748名、【3年生】176名	①YCKプロジェクトに生徒が参加して適切な振り返りができているか。 ②生徒の課題解決能力、主体性及び協働して学ぶ態度が育っているか。 ③ポートフォリオ等を進路実現に活用できたか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D
12 成果	総合評価	
○学校と地域が力を持ち寄り、「みんなの学び=YCKプロジェクト」を組織的に推進できた。 ○生徒が主体的に地域の大人と協働して、「ヒダスケ!」の参加者を増やす仕組みを作った。 ○副担任会議を時間割に組んだことで、組織的かつ計画的にカリキュラムを開発できた。 ・○キャリアプランナーのおかげで、運営の質を保ちながら、充実した広報活動もできた。 ▲ESDの授業時間を定期的に確保できず、生徒の主体的な取組を支援することに苦勞した。 ▲3年生の進路決定時に活用できるキャリアパスポート (ポートフォリオ) がない。	A (B) C D	
13 来年度に向けての改善方策案	・ESDの授業と職員会議の重なりを、管理職と教務主任を交えて来年度の行事計画を見直した。 ・ESD等で各教科科目等の学びが活用発揮されるよう、プレゼンテーションを軸にカリキュラムをマネジメントする。 ・振り返りシートをPDF化し、担任から返却されたものを個人フォルダに保存する仕組みを確立する。 ・「地域プロジェクト学習」の実施に向け、開発したカリキュラムの有効性と課題を検証し、指導書としてまとめる。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月7日

【意見・要望・評価等】
・地域で学び成長した生徒がプロジェクトで学んだことを活かして進路を実現していることが報告会を通して伝わった。今後は感染状況を鑑みながらも、地域のみなさんが多く来場できるようになることを望む。 ・地域の課題を掘り下げ、解決策を提案する生徒の姿を見て、学校・地域の大人が「学びの伴走者」として、生徒の個別最適な学び・協働的な学びを、個に応じた、段階的な支援ができるように、力を持ち寄りたい。